

令和元年度  
荒川区就学前教育と小学校教育との  
一層の円滑な接続を図るための  
教育課程の研究・開発委員会

実践事例集

令和2年3月  
荒川区教育委員会

## はじめに



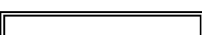
荒川区では、就学前教育と小学校教育との一層の円滑な接続を図るために、荒川区版の「5歳児から小学校第2学年までの3年間をひとまとまりとした教育課程」を作成した。さらに、本教育課程が教育現場で普及活用されていくものにするために、実際の保育・授業の参考となる「自然／生活科」「文字・言葉／国語科」「数量・図形／算数科」の事例を提示することとした。本冊子を各就学前施設・小学校において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を柱に、子どもの学びや育ちをつなげていけるよう活用していただきたい。

令和2年3月 荒川区教育委員会

## 実践事例集の見方

【幼保小のつながり】を意識し、【育みたい幼児の姿・目指す児童の姿】を設定した。  
【育みたい幼児の姿】は、幼稚園教育要領が示す5領域(「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」)を基に、【目指す児童の姿】は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に設定した。

### ○枠について

-  : 本時のねらい  
 : 子どもの見方・考え方が深まった姿  
 : 本時で出てきた子どもの姿につながった手だて

### ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について

幼児の就学前教育修了時の具体的な姿

【就学前施設では】方向目標であり、到達目標ではない。

教員が指導を行う際に考慮するものである。

【小学校では】これまでの育ち・学びの方向性である。

これを土台としてさらに資質・能力の伸長を図る。

### ○内のア～コの表記について

実践の中で出てきた「子どもの見方・考え方が深まった姿」を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(ア～コの10の姿)」と関連付け、主に該当する姿を表記した。

「子どもの見方・考え方が深まった姿につながった手だて」の表記について

【教】：教師の言葉掛け

【環】：環境構成

【経】：過去の経験

【他】：他者とのかかわり

### ○これまでの経験からつながる活動を矢印でつなぎ、学びの積み上げを意識した。

自然 / 生活科 分科会  
实践事例

5 歳児 1 1 月

「秋の自然と仲良くなろう」

## 【活動のねらい】

秋の自然に触れ、全身で様々なことを感じ取る。

- 自然物それぞれの大きさや形などの違いに気付いたり、調べてみようとしたりして、興味をもって関わる。
- 見つけた自然物を自分たちなりに遊びに取り入れて楽しむ。

## 【幼保小のつながり】

生活科は幼児期から新入児童の学びをつなぐ役割を果たしている。生活科の学習指導要領の指導計画の作成と内容の取扱いにおいても、「具体的な活動や体験を通して」深い学びの実現を図るようにすることと明記されており、幼稚園での自発的な遊びと環境による学びとの関連が大きい。

小学校の生活科では、秋の自然に関わることで、夏との季節の違いや特徴に気付いたり、自然物を使って工夫して表現したりして、四季や自然への理解を深める。幼児期に直接的に自然に触れることや、様々な自然物と関わり、その種類の多様さや美しさ、不思議さに心を動かし、興味や関心をもつことが、小学校以降の深い学びにつながっていくと考える。

## 【育みたい幼児の姿・目指す児童の姿】 幼稚園教育要領 5 領域・新学習指導要領生活科解説より

幼・秋の自然に環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。

小・自然の事物や現象について関心をもち、その理解を確かなものにしようとする。

幼・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。

- ・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- ・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

小・自分の気持ちや考えを適切に表現する方法を選択し、自信をもって表現しようとする。

## 【幼保小のつながりを意識した援助】

秋の自然に実際に触れ、諸感覚で様々なことを感じている姿を受け止める。

公園で見つけた物をその場で調べることができる場や、幼児と考えた「遊びに生かすことができるような分類」ができるカゴなどを準備し、感じたことや考えたことをすぐ実現できるような環境を用意する。

今までの経験を基に、見つけた自然物を自分たちの遊びに生かそうとする姿を支えられるよう、保育室の製作コーナーを設定する。

## 【これまでの経験】

## 活動に関すること（自然との関わり）

- ・夏野菜の栽培では、自分たちで幼稚園の畑やプランターに植えたい野菜を考えて苗を植えた。夏に収穫できる野菜を家庭でそれぞれ調べてきて、学級で話し合い、植える野菜を決めた。家庭での生活と幼稚園での活動がつながりをもつことで、より関心を高めることにつながった。
- ・栽培の過程では、成長していく様子や、葉の形や大きさに関心を持ちながら観察画を描いた。収穫したジャガイモに関心をもって触られるように定規、メジャー、はかり、体重計などを用意しておく、1 個 1 個の長さを比べたり、大きさを体重計で量り自分たちの体重と比べたりしてみようとしていた。実際の体験の中で栽培物や収穫物に触れる経験から、考えたり、試したりする姿が見られた。
- ・家庭から持ってきたチョウの幼虫や、小学校のピオトープで見つけたオタマジャクシを育てた。エサや育て方を担任と図鑑などで調べ、チョウやオタマジャクシになるまで育てる経験をした。自分で見つけた課題に、自分なりの方法で解決策を考えて取り組む経験を重ねられるようにしている。
- ・興味や関心、家庭での保護者の子どもたちへの関わりには個人差が大きい。生き物や栽培物の成長や小さな変化に気付くことが難しく、興味や関心が継続しない姿もある。環境や言葉掛けを工夫したり、友達の気付きに刺激を受けたりできるような機会をつくっている。

【本時】

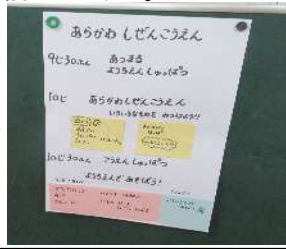
(1) 本時のねらい

荒川自然公園で秋の自然に触れる。


自然物に興味をもって関わり、自分たちの遊びに取り入れようとする。




(2) 活動の展開



【前日】

時間	幼児の活動	幼児の反応および思考・判断
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集合する</li> <li>○荒川自然公園に出かけることについて話を聞く</li> <li>・公園にどのような自然物があるかを予想する</li> </ul>	<p>【経】秋の自然物に触れたことや、数日前に収穫したサツマイモを大きさで分類したことなどの経験の積み重ねを生かし、公園の自然物を予想し、どのように分類をして持ち帰ったら楽しく遊ぶことができるかを考える時間を事前につくる。</p> <p>【環】当日の流れを示した紙を用意し、視覚的に伝えることで期待を高め、活動に見通しをもてるようにする。</p> <p>【教】幼児の発言を教師がその場で書き込んで示し、様々な発言や考えを認め、引き出す。</p> 
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見付けた自然物を使ってどのように遊ばたいか、どのように持ち帰るかなどを考える</li> </ul>	<p>↓</p> <p>当日の活動に期待をもち、次々に言葉で自分の考えを伝える。自然物で作ってみたいものや、調べてみたいことを伝える。ヶ</p> <p>【環】幼児の発言を受け止め、当日の環境構成に生かす。 (公園の環境設定・思いを実現できるような保育室の材料)</p> <p>↓</p> <p>サツマイモのようにドングリも大きさで分けておいたら良いのではないかと考える。マツボックリやドングリの帽子なども持ち帰って遊びたいので、カゴを用意したいと提案する。カク</p>

【当日】

20分	<p>幼稚園を出発する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の自然に触れながら歩く</li> </ul>	<p>【他】紅葉に気付いた幼児の発言を受け止め、周りの幼児にも関心を広げる。</p> <p>【教】公園で様々な発見を楽しめるような言葉を掛ける。 「今日はすてきなものをたくさん見付けようね」 ドングリが実っている木の上の様子などにも視点を広げられるよう声を掛ける。</p> <p>↓</p> <p>道路の脇の木が赤く色付き始めていることに気付き、保育者に伝える。公園内の道を歩いている中で、小さな木の実やドングリを見付けて触れる。落ち葉を踏んで、音を楽しむ。キ</p> 
-----	---	--

<p>30分</p>	<p>荒川自然公園に到着する</p> <p>○秋の自然に触れる・ドングリや落ち葉を見付ける</p> <p>・見付けたドングリの種類を調べたり、分類したりする</p> <p>・全身で落ち葉に触れて遊ぶ</p>	<p>【環】事前に子どもたちと話し合った、大きさをドングリを分類することができるカゴを用意しておく。「おおきい・ちゅうくらい・ちいさい」に合わせてカゴの大きさも変え、視覚的に分かりやすく設定する。</p> <p>↓</p> <p>様々な大きさのドングリを見付ける。事前にみんなで考えておいた大きさの分類だけではない、形や色など多様な種類があることに気付く。 「これは細い!」「まんまるだよ。」 「緑色だ。」カク</p>  <p>【教】一緒に葉っぱをかけあったり、踏んでみたりして全身で感じ取る楽しさに共感する。表現を引き出したり、動きを言葉に表して返したりして言葉を広げる。</p> <p>↓</p> <p>落ち葉を踏んで音を聞いてみたり、たくさん集めて友達とかけあったりして、感触を楽しみ全身で触れている。キ 感じたことを言葉で伝えようとする。「カサカサって言うよ。」「シャクシャクする。」ケコ</p> <p>↓</p> <p>【環】秋の自然に関連する本や図鑑、公園にあるドングリの写真を集めた掲示物を用意し、自分たちで興味をもって調べることができるようにする。</p> <p>↓</p> <p>見付けたものの名前や特徴を調べる</p> <p>見付けたキノコに興味をもち、名前を本で調べようとする。図鑑を持ち歩き、載っているドングリと同じものを探す。カ</p>  
<p>20分</p>	<p>荒川自然公園を出発する</p>	<p>【環】発言を受け止め、保育室の環境構成を考えておく。 ・ケーキの材料となりそうな紙粘土の提示 ・製作をする幼児と、じっくりと自然物を調べたい幼児それぞれが思いを実現できる場の確保 など</p> <p>↓</p> <p>見付けた自然物で遊ぶことを楽しみにしている。コ 「ケーキが作れそう!」「重いか調べてみたい」</p>

<p>20分</p>	<p>幼稚園に到着する</p> <p>活動の振り返りを する</p> <p>○好きな遊びをする ・自然物使った遊び</p> <p>製作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーキ</li> <li>・アクセサリ</li> <li>・プレスレット</li> <li>・音の出る楽器</li> <li>・顔を描く</li> <li>・ドングリの家作り</li> </ul> <p>など</p> <p>・大きさや重さを調べたり比べたりする</p> <p>○片付けをする</p>	<div data-bbox="600 161 1449 336" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【環】前週の「(自然物で)食品サンプルを作りたい」という子どもの考えを受け止め、材料となりそうな素材を事前に用意し、自由に選び取れるように設定しておく。(カップ・ペットボトルのふた・紙粘土など)</p> </div> <div data-bbox="600 398 1449 645" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>前週の導入で子どもが作りたと言っているものを作って思いを実現しようとしている。紙粘土を丸め、ドングリや枝を飾ってケーキを作る。コ</p>  </div> <div data-bbox="600 654 1449 900" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【経】サツマイモの重さを学級全体で量った経験をつなげ、はかりを用意しておく。</p> <p>【環】子どもが書きたいと思ったときに数字や文字を書き添えることができるよう、紙やえんぴつを用意しておく。</p> <p>【教】種類ごとの違いや、見た目・重さの感覚と数字を対比させて感じ取れるような言葉を掛ける。</p> </div> <div data-bbox="600 958 1449 1182" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>自然物の大きさを比べたり、重さを量ったりする。はかりの目盛りを読んだり、数字を書いて表したりする。「こっちが2(g)で、こっちも2(g)だよ。」カク</p>  </div>
<p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</p> <p>健康な心と体    自立心    協同性    道徳性・規範意識の芽生え    社会生活との関わり    思考力の芽生え</p> <p>自然との関わり・生命尊重    数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚    言葉による伝え合い    豊かな感性と表現</p>		

【評価の観点】

幼児 秋の自然に触れ自然物に興味をもって関わり、自分たちの遊びに取り入れようとしていたか。

教師 幼児が秋の自然に楽しみながら触れることができるような言葉掛けや環境設定ができたか。幼児が今までの経験や自分なりの考えを取り入れ、自然物を遊びに生かそうとする姿を引き出す援助ができたか。

【考察】

- 幼児期に直接的に十分に自然と親しむ経験をするのが、季節の違いに気付く、気付いたことを文字や言葉で表現して伝える、工夫して製作するなどの小学校以降の深い学びにつながると考えた。
- 導入ではドングリの大きさに着目している幼児の姿があったが、実際に触れて遊ぶことをとおし、多様な種類があることに気付いていた。落ち葉・小枝・さらにカエルなどの生物にも触れ、発見を言葉で積極的に表現しようとしていた。経験からどのようなものと出会えるかを考える時間を事前につくったり、公園に図鑑や掲示を設定したりするなど、幼児が主体的に興味をもって活動できるよう援助をした。
- 自然物を使った遊びでは、事前に作りたと思ったものを作ろうとする幼児もいれば、実際に触れて思いついたことを実現しようとする幼児の姿もあった。発言を受け止めながら、素材を提示したり、場を整理したりするなど、柔軟に環境を構成した。自然物に触れる中で幼児の関心は様々なところに広がっていく。一人ひとりの関心を受け止め、思いを実現できるよう援助するとともに、関心を広げられるような言葉掛けをしていくことも必要である。
- 本時では公園で見つけた自然物をすぐに遊びに生かしたが、じっくりと自然物の素材そのものと触れ合う時間を作ることが大切である。より豊かなアイデアが遊びの中にも出てくると考える。



第1学年・生活科 「たのしいあき いっぱい」  
(東京書籍「あたらしいせいかつ」上巻)

**【教科のねらい】**  
 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能の基礎)  
 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等の基礎)  
 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

**【幼保小のつながり】**  
 秋は色づいた葉、様々な形の実、たくさんの鳴く虫など夏とは、まったく違う自然を見せる。その中で子ども達は教えられなくても自ら関わろうとする姿を見せてくれる。保育園・幼稚園でたくさんの秋に触れ合ってきた児童にさらなる気付きやそれらを取り入れて生活を楽しくしようとする児童を育てたい。

**【育みたい幼児の姿・目指す児童の姿】** 幼稚園教育要領5領域・新学習指導要領生活科解説より

幼・直接的な自然体験を十分に積み重ね、感じる、変化に気付く、言葉にする、遊びに取り入れるなどして、自分の遊びや生活をより楽しもうとする。 小・自然の事象や現象について関心をもち、その理解を確かなものにしようとする。	自然との関わり・ 生命尊重
幼・様々なことに心を動かしながら表現する楽しさを味わい、身近にある素材の特徴や表現の仕方に気付き、感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとする。 小・自分の気持ちや考えを適切に表現する方法を選択し、自信をもって表現しようとする。	豊かな感性と 表現

**【幼保小のつながりを意識して、学習を深めさせる手だて】**  
 観察カードや作ったものの画像などの成果物を本に綴じていつでも児童自身が振り替えられるようにする。  
 見つけたものをタブレットで写真に撮ったり電子黒板で学級全体に画像を見せたりする。  
 図書館司書と連携を図り秋の自然について学習できる資料やおもちゃの作り方の資料を児童が手に取れるようにしておいておく。

**【単元の目標】**

秋の校庭や公園で、身近な自然と関わり、それらを利用して遊ぶことを通して、秋の自然や、夏の違いや変化に気付いたり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができるようにする。

**【単元の評価規準】** 新学習指導要領

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
夏から秋の変化や違いや特徴に気付いている。 身近な自然を利用して遊ぶものを作り、その面白さや自然の不思議さに気付いている。	自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることについて考え工夫して表現している。 秋の自然を使って遊び自体を工夫したり遊びに使うものを工夫したりしている。	四季の変化や身近な自然の様子や特徴を生活の中に取り入れ、自分の生活を楽しくしようとしている。 身近な自然を利用して遊ぶものを作り楽しんだり、友だちと楽しんだりしようとしている。

【単元指導計画と評価計画】



時間	○学習活動 ・具体例	指導上の留意点 評価
生活科見学に行き どんぐりや葉を拾ってくる。		
1	<p>本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">こうていのあきをみつけよう。</div> <p>校庭で秋さがしをする。 (花・木・虫・プールなどの様子) 発表する。</p>	<p>夏から秋の変化や違いや特徴に気付いている。 (【知識及び技能】発言・ワークシート)</p>
2 本 時	<p>本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">みつけたあきをしょうかいしよう。</div> <p>校庭で見つけた秋や遠足の写真を見ながら秋の様子を思い出す。</p> <p>○見つけたものをどう発表するか考える。 ○隣の友達と見つけたものを発表し合う。 ○振り返りをする。</p>	<p>電子黒板で写真を見られるようにする。 身近な自然を利用して遊ぶものを作り、その面白さや自然の不思議さに気付いている。(【知識及び技能】ワークシート・作品)</p>
3 ・ 4	<p>本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">おもちゃのせっけいずをつくろう。</div> <p>図書資料を見て作りたいものを選ぶ 設計図・必要なもの・作り方などをワークシートに書く。 ○振り返りをする。</p>	<p>図書資料を移動式の棚に用意し環境を整える。 秋の自然を使って遊び自体を工夫したり遊びに使うものを工夫したりしている。(【思考力、判断力、表現力等】ワークシート)</p>
5 ・ 6	<p>本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">おもちゃをつくろう。</div> <p>設計図や作り方を見ながらおもちゃを作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんぐりの穴あけきや段ボールカッターの使い方を説明する。</li> <li>・同じおもちゃを作る児童を同じグループにして学び合えるようにする。</li> <li>・良いアイデアは学級に知らせるようにする。</li> </ul> <p>○振り返りをする。</p>	<p>道具の使い方を説明したり環境を整えたりして安全に留意させる。 秋の自然を使って遊び自体を工夫したり遊びに使うものを工夫したりしている。(【思・判・表】ワークシート・おもちゃ)</p>
7 5 12	<p>おもちゃの報告会や学年での秋祭りを計画していく。</p>	



【本時】

(1) 本時の目標

- ・自分が見つけたものを友達に紹介する

(2) 本時の展開

時間	学習活動	児童の反応および思考・判断
5分	1 秋の様子を思い出す。	<p>【教】【環】【他】電子黒板で遠足の様子を見せて秋の様子を想起させたり児童のつぶやきを取り上げたりする。また、教室内の環境としてキンモクセイ・ススキなどを飾っておいた。</p> <p>↓</p> <p>遠足でドングリを見つけた。</p>  <p>↓</p> <p>いいにおいのする花があったな。</p> <p>↓</p> <p>だんだん寒くなってきたな。</p>
15分	2 本時のねらいを知る。	<p>みつけたあきをしらせよう。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけたものの中から紹介したいものを選ぶ。</li> <li>・紹介文を書いたり作品にしたりする。</li> </ul>	<p>【教】【他】発問や前時に不思議だなと思うことを発言した他児がいた。生活科の授業で発見したことを発表してきた経験がある。</p> <p>↓</p> <p>不思議だなと思ったこと発見したことを知らせよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉の表と裏の色が違う。</li> </ul> <p>【経】就学前にドングリで人形やリースを作った経験がある。</p> <p>↓</p> <p>ドングリで何か作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドングリ人形</li> <li>・ドングリのまち</li> </ul>  <p>【経】【環】春や夏の様子を知っていることや調べることができる図書資料が教室にある。</p> <p>↓</p> <p>もっと知りたいな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・捕まえたトンボの名前</li> <li>・冬の木はどうなるか</li> </ul>
10分	3 友達に見つけたものを紹介する。(二人組で発表)	<p>【他】【経】たくさんの友達との発表を繰り返すことによって自分と相手の内容の比較をする能力が育っている。</p> <p>↓</p> <p>ぼくとおなじものを見つけただな。</p> <p>↓</p> <p>どングリで人形を作るなんてすごいな。</p>

10分	4 振り返りをする。	<p>【環】【経】【他】 ドングリやマツボックリなどの秋の自然を使って作るおもちゃのアイデアが載っている図書館資料を用意しておいた。発表準備が終わった児童は、それらの本を読みイメージを膨らませていた。また、担任の作ったドングリマラカスやドングリゴマを見付けて遊んだ。</p> <p>↓ ↓ ↓</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>もっと時間をかけておもちゃを作ってみたいな。</p>  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>友達をびっくりさせたいな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>友達とドングリで遊ぶおもちゃを作ってみたいな。</p>  </div> </div>
<p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</p> <p>健康な心と体    自立心    協同性    道徳性・規範意識の芽生え    社会生活との関わり    思考力の芽生え</p> <p>自然との関わり・生命尊重    数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚    言葉による伝え合い    豊かな感性と表現</p>		

【評価について】

本授業で児童は、自分の見つけたものを紹介するということに意欲的に取り組んだ。それは、今までの体験があったことや教室環境が整えられていたこと・他者との学び合いが大きかった。

【考察】

- 就学前と入学後では「秋の自然を楽しむ」こと自体は同じであるが入学後になると、これからの季節を想像したり、虫の名前を図書館資料で調べたり、書き溜めた観察カードを見直したりすることで更なる気付きや追求がみられるようになってくる。これは、就学前の無自覚的な学びという土台があってこそ入学後の気付きや学びが築かれるのだと考える。
- 児童の多様な考えや実現したいことを担任が受容することは児童の意欲の継続する上でも大切である。そして、児童自身の力で自己の表現したいものを実現させた経験の積み上げが自信につながっていく。
- 秋の実や葉などを使って作るおもちゃのアイデアが載っている本・虫や植物の名前が調べられる本などを環境として置いておくことで児童は自ら調べたり、新たな知識を得たりすることができる。
- 就学前の教師が幼児の採ってきたもの・発見したものなどを受容したり、大切に扱ったりしたように入学後の教師も同じような態度で接すると児童の自然に親しむ態度がより育つと考えられる。
- 二人組で発表し合うことは必ず相手が自分の話をきいてくれる状況なので、話すことに抵抗感のある児童も話すことに苦手意識がなくなっていくという良さがある。また、友達の話聞いたことでいろいろな表現の仕方があると知ったり、自分の気付きと比較できたり、次の自分の表現に取り入れたりしていくことができる。

文字・言葉 / 国語科 分科会  
実践事例

5 歳児 1 1 月

「自分たちの劇のストーリーを考えよう」

## 【活動のねらい】

友達と一緒に自分たちの劇をつくることを楽しむ。

今までの経験や絵本などを思い出して自分の考えもち、相手に伝わるように話す。

友達の意見や考えを聞き、よさを受け入れたり、更によくなるように考えたことを伝えたりする。

## 【幼保小のつながり】

小学校の教科では言語活動をとおして、事柄の順序を考えながら話すこと、大事なことを落とさないように聞くこと、すすんで話したり聞いたりしようとするなどなどを指導している。就学前施設で、遊びや生活といった日々の保育すべての中でいろいろな言葉に触れたり、保育者に受け止めてもらえる安心感や喜びから伸び伸びと自分を表現したりすることは、言葉による伝え合いの基礎となる。自分の思いや考えを言葉にして伝えることや、相手の思いや考えを聞き受け入れたりそれを踏まえて自分なりに考えたりすることは、小学校以降の学習につながっていくと考える。

## 【育みたい幼児の姿・目指す児童の姿】 幼稚園教育要領 5 領域・新学習指導要領国語科解説より

幼・人の言葉や話しなどをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。

小・順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつ。

幼・日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。

小・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりする。

## 【幼保小のつながりを意識した援助】

自分が考えたことを安心して発言できるよう受け止める。そう考えた理由や自分の考えをより詳しく説明して相手に伝わるように、問い掛けて言葉を引き出す。

幼児の発言を繰り返したり、簡単な言葉に言い直したりして整理し、周囲の幼児が理解できるようにする。

自分の思いを出すだけでなく、他児の発言に気持ちを向けて聞けるように言葉を掛ける。

## 【これまでの経験】

## 活動に関すること

- ・帰りの会で絵本の読み聞かせを聞いたり、毎週末の絵本貸し出しを通し家庭で読み聞かせをしてもらったりする中で、いろいろな絵本に親しんでいる。絵本の読み聞かせを楽しみにし、興味をもって聞いている。気付いたことや考えたことをつぶやいたり、反応をしたりしながら続きを楽しみに聞いている。
- ・イメージが豊かで、自分なりに考えたことを言葉で相手に伝えながら遊びをすすめる姿が見られる。

「だから、しょう」と理由を添えて相手に分かりやすく伝えられる幼児もいるが、一方で思いを言葉にしきれず互いの思いや考えを理解できないことでトラブルになることもある。

**話す・聞くに関すること**

- ・遊びや生活の中で、分からないことがあると聞いたり、幼児同士で教え合ったりしている。
- ・虫探しや自然物との関わりの中で、気付いたことや自分なりに考えたことを教師や友達に言葉で伝え合っている。また、分からないことがあると図鑑や絵本などを見て調べ、分かったことを教え合っている。
- ・グループ活動の際、自分の思いや考えを積極的に言える幼児もいるが、一方で自分の思いを出せず他児に合わせてしまう幼児もいる。話合いが平行線になることもあり、解決するためにどうしたらよいか教師が投げ掛けてきたことで、交渉したり譲り合ったり、自分で考えたことを言葉で相手に伝えようとする姿が見られる。
- ・活動の振り返りなどで、自分の思いや経験したことを言葉にして伝えている。友達の話に気持ちを向けて聞き、内容を思い浮かべたり、自分が経験したことと比べたりしている。
- ・挙手をして指名されてから話すというきまりが定着してきているが、自分の思いを伝えたい気持ちが大きく、教師や他児の発言している途中にも自分のことを伝えようとする幼児もいる。話したい気持ちを受け止めながら、聞くときと話すときの状況に応じたふさわしい態度が身に付くように繰り返し指導している。
- ・クイズや言葉集め、しりとりなどの言葉遊びを楽しんでいる。クイズでは自分で決めた答えに対してヒントを考えて出し、友達とのやりとりを楽しんでいる。


**【本時】**

(1) 本時のねらい


今までの経験や絵本などを思い出して自分の考えもち、相手に伝わるように話す。  
 友達の意見や考えを聞き、よさを受け入れたり、更によくするように考えたことを伝えたりする。

(2) 活動の展開

**【前日】**

時間	幼児の活動	幼児の反応および思考・判断
20分	劇の話合い	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【経】絵本の読み聞かせを聞く。                      【経】自分の好きなものになりきって遊ぶ。                      【経】劇遊びの経験や小学校の学芸会の見学。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・自分がやってみたい役を言う。イ                      ・自分なりの考えをもち、言葉にして伝える。ケ                      ・友達の話聞き、更に考えたことを伝える。ケ                      ・劇の話合いに期待をもち、自分がやってみたい役やストーリーに関する絵本を集める。イ</p> </div>

【当日】

<p>1分</p>	<p>劇の話し合い ・本日話合う内容を知る。</p>	<p>【環】前日までに話し合ったことを文字や絵で書いたものを掲示し、視覚的に思い出しやすいようにする。 【環】前日に集めた参考になる絵本を用意しておく。 【教】前日に話し合った部分までを振り返り、本日話合う内容を明確にして、投げ掛ける。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・前日に話し合ったことを思い出し、どんなストーリーにするか、考える。イ</p>
<p>19分</p>	<p>・ストーリーを考えて話合う。</p>	<p>【経】安心して話せる関係づくり。 【経】拳手をして指名されてから発言する。 【教】幼児の発言を受け止める。 【教】内容があいまいな部分について問い掛け、整理して伝え直し、周囲の幼児も理解しやすいようにする。 【環】発言を文字や絵で示し、整理する。 【環】話がしやすく、幼児のつぶやきが活発になる距離。 【経】友達の話最後まで聞く。 【経】【他】友達の話聞き、更に自分の考えたことを発言する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・自分なりの考えをもって発表する。ケ ・自分の考えたことを、言葉や身振りも添えて伝える。ケコ ・友達の話聞く。ケ ・友達や教師の発言を受け止め、理解する。オ ・友達の発言を聞き、さらに自分なりに考えたことを発表する。オケ</p> 



10分	・話し合いに出てきた絵本の読み聞かせを聞く。	<p>【環】絵本と、話し合った内容が示された掲示物とを見比べられる。</p>
5分	話し合いの振り返りをする。	<p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味をもって絵本の読み聞かせを聞く。イ</li> <li>・自分たちが考えているストーリーと比べ、気付いたことをつぶやく。カ</li> <li>・絵本を見て、更に自分なりに考えたことを発言する。ケ</li> </ul> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【環】話し合いで決まったことを整理して絵や文字で示す。 【教】次回話し合う内容を投げ掛け、期待につなげたり、自分なりの考えをもったりできるようにする。</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が考えたことを友達と伝え合う。ケ</li> <li>・「魔女役は しようね」と、なりたい役を決め、友達と一緒に演じることを楽しみにしている。ウ</li> </ul> </div>
<p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</p> <p>健康な心と体    自立心    協同性    道徳性・規範意識の芽生え    社会生活との関わり    思考力の芽生え</p> <p>自然との関わり・生命尊重    数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚    言葉による伝え合い    豊かな感性と表現</p>		

【評価の観点】

- 幼児    今までの経験や絵本などを思い出して自分の考えをもち、相手に伝わるように話そうとしていたか。
- 友達の意見や考えを聞き、よさを受け入れたり、更によくなるように考えたことを伝えたりしていたか。
- 教師    発言を整理したり文字や絵で示したりして、幼児が互いの考えや劇の全体像を掴めるように援助できていたか。
- 互いの思いや考えを聞き話し合うことで、劇遊びへの意欲や期待につなげることができていたか。

【考察】

言葉による伝え合いは、日々の経験の積み重ねである。

友達の話を聞いたり絵本の読み聞かせを聞いたりしながら、更に自分なりの考えをもち、言葉にして伝えようとする姿が見られた。

教師が幼児の話丁寧に聞き取ることで、安心して発言することができる。発言を認められることで次の発言の意欲につながる。また、教師が幼児の発言を整理したり、絵や文字にして示したりすることで幼児の理解を助け、友達の考えを受けて自分なりに更に考えようとする姿につながる。

全体での発言だけでなく、一人ひとりが考えをもちつつつぶやいている言葉を拾っていくことも大切である。そのためには教師と幼児の心理的・物理的距離を近づけることも必要である。

第1学年・国語科	「みの まわりの いきもの」(三星堂「小学生の国語」下巻)
----------	-------------------------------

<p><b>【教科のねらい】</b>                  ○探した秋について発表したり、秋の生き物をよく見たり、学校図書館の本等を活用したりして、書くことに必要な事柄を集める。                  ○秋の生き物をよく見て文章を書く。</p> <p><b>【幼保小のつながり】</b>                  幼児期では、秋探しや栽培活動、絵本や図鑑の読み聞かせを聞く経験をしている。体験的に自然に関わったり、自分の思いや考えを言語化したり、探した秋のものを製作に活用したりして、自然に親しんでいる。そのような経験を想起させたり、教室環境を保育園や幼稚園の保育室と近付けたりして、保幼小のつながりをもたせる。本単元では、幼児期の経験内容を基に、秋の生き物について文章に表す。また、秋の生き物を色や形、大きさなどの観点で見るといったものの見方に気付かせ、見付けたことを整理・分類したりする。</p> <p><b>【育みたい幼児の姿・目指す児童の姿】</b> 幼稚園教育要領5領域・新学習指導要領国語科解説より</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%;">                     幼・様々なことに心を動かしながら表現する楽しさを味わい、身近にある素材の特徴や表現の仕方に気付き、感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとしている。                      小・自分の気持ちや考えを適切に表現する方法を選択し、自信をもって表現しようとする。                 </td> <td style="width: 30%; text-align: center; vertical-align: middle;">                     豊かな感性 と表現                 </td> </tr> </table> <p><b>【幼保小のつながりを意識して、学習を深めさせる手だて】</b>                  生活科と関連させて秋の生き物と関わる経験をしたり、探した秋について発表したりする。                  学校図書館の本やタブレットPC、写真を活用して書く事柄を集められるようにする。                  教室環境を保育園や幼稚園の保育室と近付けたり、体験（触れる、読む、見るなど）を伴って思いや気付いたことを言葉にできるようにしたりする。</p>	幼・様々なことに心を動かしながら表現する楽しさを味わい、身近にある素材の特徴や表現の仕方に気付き、感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとしている。 小・自分の気持ちや考えを適切に表現する方法を選択し、自信をもって表現しようとする。	豊かな感性 と表現
幼・様々なことに心を動かしながら表現する楽しさを味わい、身近にある素材の特徴や表現の仕方に気付き、感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとしている。 小・自分の気持ちや考えを適切に表現する方法を選択し、自信をもって表現しようとする。	豊かな感性 と表現	

**【単元の目標】**

身のまわりの生き物をよく見て簡単に説明する文章を書き、「みのまわりのいきものずかん」を作る。

**【単元の評価規準】** 新学習指導要領

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
文の中における主語と述語の関係に気付いている。	様々な観点から生き物をよく見て、書く事柄を集めている。 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書いている。 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付いて正している。 友達の書いた文章を読み、感想を伝えている。	秋の生き物をよく見て簡単な文章を書き、「みのまわりのいきものずかん」をつくることに興味をもっている。

【単元指導計画と評価計画】(11時間扱い)


		学習計画	評価(評価方法)
一 次	1	・秋の生き物について、経験したことを発表する。 ・学習の見通しをもつ。	態度 - (発表)
二 次	2	・様々な観点から生き物をよく見て、取材カードに書く。	思・表・判 - (取材カード)
	3 4	・学校図書館の本等も活用して、秋の生き物について調べ、取材カードに書く。	思・表・判 - (取材カード)
	5 6 7	・教科書の文例を読み、説明する文章の構成を知る。 ・取材カードを基に、文章を書く。	思・表・判 - (発言) 思・表・判 - 、 (記述シート)
	8 9	・書いた文章を読み返し、間違いを直す。 ・清書する。	知・理 - (作品)
三 次	10 11	・書いた文章を集めて「みのまわりのいきものずかん」を作り、友達と読み合う。 ・学習を振り返る。	思・表・判 - (交流の様子)



【本時】

(1) 本時の目標

生活科「たのしい あき いっぱい」で探した秋などについて発表することを通して、様々な観点から秋の生き物をよく見て、取材カードを書く。

(2) 本時の展開(第2時/全11時間扱い)

時間	学習活動	児童の反応および思考・判断
5分	1 学習のめあてを知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">あきのいきものをよく見て、ようすを書こう。</div>
10分	2 秋探して見つけた生き物の様子を発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【経】どんぐりを触り、思ったことや感じたことを自由につぶやく。</p> <p>【環】児童の発言を短冊に書いて貼り、言葉を視覚的に捉えさせる。</p> <p>【環】短冊を仲間分けする。</p> <p>【環】集まって床に座り、先生や友達の距離を近くする。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">                 どんぐりを見つけました。細長い形をしていました。             </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">                 落ち葉や松の葉もありました。             </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">                 どんぐりは、さわるとつるつるしています。             </div> </div>

15分	3 見つけた秋の生き物について取材カードを書く。	<p>【環】机をグループの形にして書く。  【教】触る、嗅ぐ、音を聞く、動かすなど、どんぐりを関わりながら取材カードを書くように助言する。  【他】友達が書いたことやつぶやきを参考にして書く。  【環】平仮名、片仮名の50音表を掲示する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">お気に入りのどんぐりの様子を書こう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">ふると音がする。土のにおいがする。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">取材カードは、「○○は、～です。」と書けばいい。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>
10分	4 取材カードに書いたことを発表する。	
5分	5 本時の学習を振り返る。	

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】  
健康な心と体    自立心    協同性    道徳性・規範意識の芽生え    社会生活との関わり    思考力の芽生え  
自然との関わり・生命尊重    数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚    言葉による伝え合い    豊かな感性と表現

(3) 本時の板書計画

取材カードの例(文)

取材カードの例(文)

取材カードの例(文)

みつけました。

あらかわしぜんこうえんで、どんぐりを

どんぐりの写真

さわったかんじ

いろ

おおきさ

かたち

でこぼこ    つるつる

こげちやいろ    ちやいろ

ちいさい    おおきい

まるい    ほそながい

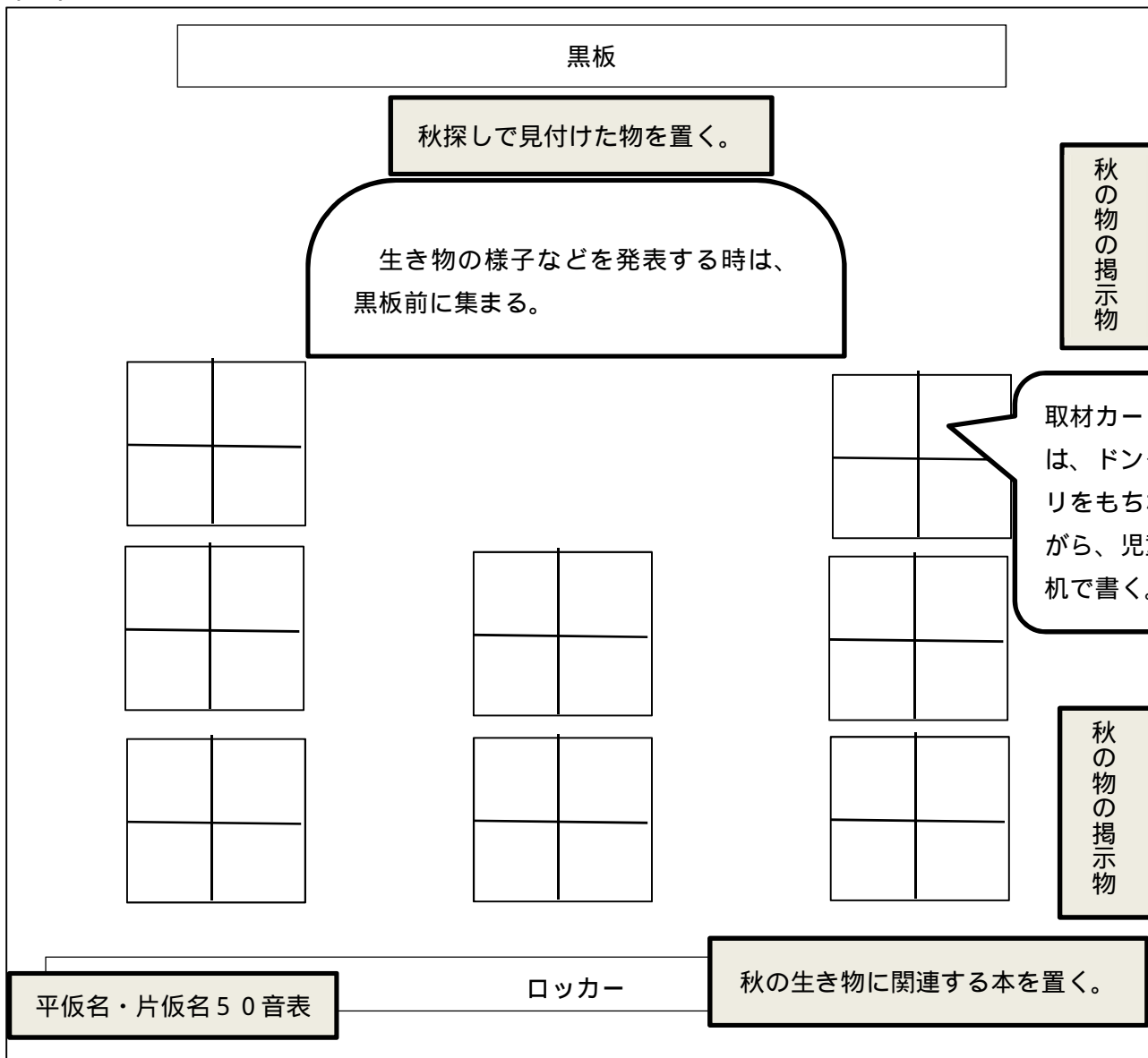
めあて

みのまわりのいきものをよくみて

あきのいきものをよくみて

ようすをかこう。

(4) 場の設定



【評価について】

○本実践は、生活科「たのしい あき いっぱい」で秋の生き物とたっぴり関わった経験を基に、探した秋の生き物の様子について書く学習である。秋探して見つけたどんぐりについて発表し、仲間分けすることで、色や形、大きさなどの観点で見るといふものの見方に気付いたり、様子を表す言葉を整理・分類したりすることができた。

【考察】

- ・どんぐりの様子を一文で表した見本を提示したことで、児童は参考にしながら文を書くことができた。取材カードを書くときに机をつけてグループの形にしたことで、児童の間に自然と学び合いが生まれ、学習が深まっていた。
- ・教室を前後に分けて発表の場と書く場を作ることで保育室と近付けたこと、秋の生き物に関する図書を置いたこと、どんぐりや落ち葉などを自由に触れるようにしたことなど、教室環境が児童の学びを深める手だてとなった。
- ・児童に誰に、何のために書くのか、目的意識や相手意識をしっかりとせたり、単元のゴールである「みのまわりのいきものずかん」がどのような文章なのか児童にしっかりと理解させたりすることで、児童はもっと主体的に学習に取り組めると考えられる。

第2学年・国語科

「くまさん」(三省堂「小学生のこくご」下巻)

【教科のねらい】

○文章の内容と自分の経験を結び付けて読み、自分の思ったことや考えたことを表現する。

【幼保小のつながり】

幼児期には、劇遊びの中で友達と考えを出し合い、伝え合ったり、その役になりきったりしている。また、絵本を読んだり聞いたりする中で想像したり、感じたことを話したりする経験をしてきている。絵本をとおして感じたことを言葉にして伝え合うことは、小学校1年生や2年生の物語文で登場人物の気持ちを想像することや、感想を書くこと等ともつながっているといえる。本単元では「くまさん」の行動や、詩の内容などからその場面の様子の想像を広げるとともに、「くまさん」や「くまさん」に対する気持ちを文で書いたり、それに合った動作をしたりしながら、考えたことを表現できるようにする。

【育みたい幼児の姿・目指す児童の姿】 幼稚園教育要領5領域・新学習指導要領国語科解説より

幼・感じたことや考えたことを様々な方法で表現しようとする。

小・自分の気持ちや考えを適切に表現する方法を選択し、自信をもって表現しようとする。

豊かな感性  
と表現

【幼保小のつながりを意識して、学習を深めさせる手だて】

今までの経験から、「くま」や「はる」などについて知っていることを発表させるようにする。

読んで感じたことと動作化をつなぎ合わせることで、自分の思ったことや考えたことを表現できるようにする。

【単元の目標】

くまさんの行動や気持ちを、自分の経験と比べながら読み、思ったことや考えたことを発表する。

【単元の評価規準】 新学習指導要領

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。	くまや、くまのいる場面の様子を思い浮かべ、内容の大体を捉えている。 詩を読んで感じたことや、くまの気持ちを想像して文に表したり、動作化したりしている。	自分の経験を想起し、場面の様子を進んで想像している。 感じたことや、想像した気持ちを友達と話し合いながら動作化している。

【単元指導計画と評価計画】(2時間扱い)


	学習計画	評価(評価方法)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「くま」から連想することを発表する。</li> <li>・「冬眠」について知る。</li> <li>・おもしろいと思ったところを発表する。</li> <li>・詩の全体像をつかむ。</li> </ul>	知・技 - (発言) 態度 - (発表) 思・表・判 - (発表)
本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返りをする。</li> <li>・くまの気持ちやその他に想像したものの気持ちを考える。</li> <li>・グループで動作化するための話し合いをする。</li> <li>・お互いに発表し合う。</li> </ul>	思・表・判 - (発言・ワークシート) 態度 - (発言)


【本時】

(1) 本時の目標

くまさんの行動や気持ちを表現したり、くまさんについて思ったことや考えたことを発表したりする。

(2) 本時の展開(第2時/全2時間扱い)

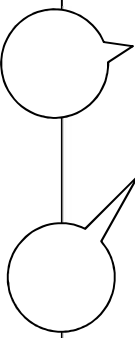
	学習活動	児童の反応および思考・判断
5分	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習のめあてを知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     くまさんの気持ちや、くまさんについて思ったことや考えたことを発表し合おう。                 </div>
10分	2 全文を1回読む。  3 くまの気持ちや、春からイメージしたものの気持ちを想像し、吹き出しに書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【環】春からイメージしたものを掲示し、イメージを広げたり、気持ちを自由に想像させたりする。</p> <p>【教】前時につかんだ場面の様子を想起するよう助言する。</p> <p>【教】春からイメージしたものから、自分で好きなものを選んで、くまへの声掛けを考えるよう伝える。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">                     あたまがぼーっとして分からなくなっちゃったなあ。                 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">                     あー自分がくまって思い出せてよかったな。                 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">                     くまさんしっかりしてよー。でも思い出せてよかったね。                 </div> </div>

<p>20分</p> <p>7分</p> <p>3分</p>	<p>4 グループで動作化に向けて話し合い、練習する。</p> <p>5 2つのグループで発表し合う。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 20px;"> <p>【環】自由に動作をしながらその場面に合った動きが考えられるようにする。</p> <p>【経】劇遊びなどの過去の経験を想起させる。</p> <p>【他】グループの友達と考えを出し合いながら動作を考えさせる。</p> <p>【教】グループでそれぞれ役割分担をしながら動作化の練習をするよう助言する。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 20px;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>「めがさめて」では、ゆっくり体を起こそう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>「だれだっけ」では、腕を組んで考えているようにしよう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>「そうだ」では、目を大きく開くようにしよう。</p> </div> </div>
<p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</p> <p>健康な心と体    自立心    協同性    道徳性・規範意識の芽生え    社会生活との関わり    思考力の芽生え</p> <p>自然との関わり・生命尊重    数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚    言葉による伝え合い    豊かな感性と表現</p>		

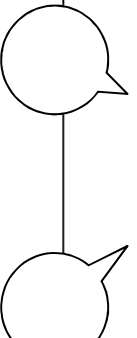
【板書計画】

- ・グループでれんしゅうしよう
- ・くまさんの気もちとついき
- ・くまさんがいの生きものの気もちとついき
- ・おたがいはつぴょうをみよう
- ・かんそうをつたえよう
- ふりかえろう
- ・がんばったことや気をつけたこと、学んだことなど

第一時に書き込みをした「くまさん」本文



第一時に書き込みをした「くまさん」本文



くまさんの気持ちや、くまさんについて思ったことや考えたことを発表し合おう。



**【考察（前時までの様子）】**

児童にとって春をイメージするということは今までの経験が多くあり、様々な考えがたくさんでした。保育園や幼稚園、1年生の時の経験だけでなく、生活科での学習も生きている様子でした。また、「なぜくまさんは自分のことを忘れてしまったのだろう」と問い掛けると、「冬眠していたから」と、答えが返ってきた。自分のことを忘れてしまうくらいに長い間寝ていたのだと想像できていた。

2年生ということで物語を読むことにも慣れてきているので、「おもしろいと感じたところ」の発問に対し、すぐ反応したり、理由を付けたりして発表できる児童も多かった。

第1時では、第2時に向け、全体で簡単に動作化を試みた。詩の分かりやすさやなじみやすさもあったせいも、ほとんどの児童が恥ずかしがることもなく、感じたままに動作をしていた。くまや、その場に居そうな生き物たちの気持ちを想像して動作化することもそう難しくなくできるのではないかと考えられる。

数量・図形 / 算数科 分科会  
実践事例

5 歳児 11月

「空き箱を使って遊ぼう」

## 【活動のねらい】

身の回りにある形を活かして遊ぶことを楽しむ。

形・大小・特徴に気付き、自分が作りたい物に合わせて、選択したり、組み合わせたりする。

## 【幼保小のつながり】

小学校の教科では、空き箱に触れる中で、辺の長さや、辺の数などそれぞれの形の特徴に気付かせ、認識させていく。幼稚園では、それらの特徴を感覚的に捉え、自分で必要な形や大きさを選択していくことを大切にしている。幼稚園での感覚的な捉えや、遊びの中で様々な形に触れる体験が、小学校の教科での認識につながっていくと考える。

## 【育みたい幼児の姿・目指す児童の姿】 幼稚園教育要領5領域・新学習指導要領算数科解説より

幼・身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

小・積み木や箱などを積んだり並べたりする活動をとおして、ものの形を認め、形の特徴を知ろうとする。

幼・身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。

小・身の回りにある積み木や箱の形の中から、色や大きさ、位置や材質などではなく、ものの形みに着目してものを捉えようとする。

## 【幼保小のつながりを意識した援助】

箱の形・大小・特徴に気付くように素材置き場を設定しておく。

幼児が作りたい物のイメージに合わせて空き箱を選択している姿を捉え、具体的な言葉で認めることで、様々な形の特徴を幼児なりに意識できるようにする。

## 【これまでの経験】

## 活動に関すること

- ・自分が作りたい物に合った大きさや形の空き箱を選び、セロハンテープで貼り合わせたり、他の素材と組み合わせたりし、ネコや車など様々な物を作る。
- ・片段ボールを丸めて円柱にするなど、平面から立体を作る。
- ・空き箱に触れる中で、『大きい』『小さい』『平たい』などの特徴を感じ、幼児なりに分類しながら遊ぶ。
- ・家庭から持ってきた空き箱を、『大きい箱』『小さい箱』『芯・筒』の3つに分けて分類する。
- ・必要に応じて空き箱を切るなどし、自分が作りたい物のイメージにあった大きさや幅に調整する。

**数量・図形に関すること**

- ・ドッジボールや鬼遊びに取り組む中で互いのチームの人数を数え、「○人多い」など数の違いを捉え人数の調整をする。
- ・ルールのある遊びでは、チームごとに向かい合って並び、前から対にして人数を数えたり、全体の人数から1チーム当たり何人いればよいかを考えたりする。
- ・夏野菜を収穫し、自分たちで数を数える。また、表にシールを貼ったり丸を描いたりして収穫した個数を記録していき、数の違いを捉える。
- ・栽培物の収穫をとおし、重さや長さ、大きさに着目し、比べる方法を考える。
- ・係の仕事の『お休み調べ』で各クラスの出席者や欠席者の人数を聞き、表に数字を書く。また、「昨日より○人少ない」「どのクラスも同じ人数休み」など、前日と比べたり、学級による違いを捉えたりする。
- ・作りたい物の目的に合わせて、長さや重さを意識し、自分なりに試行錯誤しながら製作をする。
- ・「長い針が になったから片付けよう」など、時計の針を意識して遊んだり活動したりする。

**【本時】**

(1) 本時のねらい

様々な形・大きさ・特徴のある空き箱から、自分のイメージに合ったものを選択し組み合わせて製作することを楽しむ。

(2) 活動の展開

**【当日】**

時間	幼児の活動	児童の反応および思考・判断
30分	空き箱を使って製作をする。 ・家 (土台、エレベーター、机、イス、棚 など) ・レジ	<p>【環】様々な形や厚さ、大きさの空き箱を集め、種類ごとに分け、幼児が手に取って選べる場所に設定してある。</p> <p>【教】教師が答えを教えるのではなく、幼児が自分で考えるきっかけをつくったり、気付きを受け止めたりする。</p> <p>【環】【他】同じ場所で活動できるように場を用意することで、一緒に考える友達で、どうすればうまくいくか考え、繰り返し試す姿につながっている。</p> <p>【経】生活の中で様々な経験をしていることで、それを基に遊びの中でイメージを広げ、より本物らしい物が作りたいという思いにつながっている。</p> <p>【経】今までに扱ったことがある素材や道具の中から、適した物を選択する。</p> <div data-bbox="1018 1756 1401 1975" style="text-align: center;"> </div>



- ・製作に必要な箱を、実際に手に取りながら大きさを比べ、自ら選択する。ク
- ・日常生活で使っているものや目にしているものなど、自分が経験したことを基に製作をする。オ
- ・どうしたら自分がイメージしたものを作れるか考え、試したり、友達と一緒に考えたりする。コ



15分

- 活動の振り返りをする。
- ・空き箱を使って家を作る中で、自分なりに工夫したところや、考えたところを発表する。
  - ・製作の中で試行錯誤したもののおもしろいところを話す。
  - ・友達の話を聞き、どうすればうまくいくのか、自分の経験を基に考える。

【教】幼児が自分の言葉で話せるよう、話し始めるきっかけを教師がつくったり、話を整理したりする。

【教】次のめあてや意欲につながる話を幼児から引き出す。

【教】『幅』『半分』など、数量・図形に関する幼児のつづきを意図的に捉えていく。

【他】一緒に発表してくれる友達がいることで、1人では伝えるのが難しいことも、自分なりに伝えようとする。

【環】友達の姿や作品が見えやすいような隊形で座る。





- ・製作をする中で工夫したことや困ったことを自分の言葉で友達に伝える。ケ
- ・図形に着目しながら、友達が困っていることがどうすれば解決できるか今までの経験を基に考え、意見を出し合う。

ク



## 【翌日】

30分	翌日、再度家作りをする。	<p>【教】前日に話していた内容を思い出せるようにし、自分で方法を選択できるようにする。</p> <p>【経】箱に切込みを入れ、大きさの調整をした経験。</p> <p>【他】一緒に考えたり、認めてくれたりする友達。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・前日に友達から出た考えを思い出し、どの方法で試してみようかを決める。カ</p> <p>・空き箱に切込みを入れて三角を作り、家の後ろに貼り付け、家が真っ直ぐ立つようにする。ク</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div>
<p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</p> <p>健康な心と体    自立心    協同性    道徳性・規範意識の芽生え    社会生活との関わり    思考力の芽生え</p> <p>自然との関わり・生命尊重    数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚    言葉による伝え合い    豊かな感性と表現</p>		

## 【評価の観点】

幼児    形・大小・特徴に気付き、自分のイメージに合った大きさや形の空き箱を選択し、組み合わせながら製作することを楽しんでいたら。

教師    幼児が自分のイメージに合った空き箱を選べるような環境構成ができたか。

          幼児が形・大小・特徴に気付き、自分なりに考えて製作する姿を捉え、様々な形に触れながら遊ぶ援助ができたか。

## 【考察】

いろいろな箱を準備し種類ごとに分けて出しておくことで、幼児が自分の作りたいものに合った箱を選択し、組み合わせながらイメージを広げることができた。

友達と同じ場で製作をすることで、どうすれば自分のイメージが実現できるのかを友達と一緒に考える姿につながった。

うまくいかなかったことを全体で共有したことで、友達から出た様々な考えに触れ、新たな方法を試すことができた。自分で考え製作を進めたことが満足感につながり、その後も継続して空き箱製作に取り組む姿につながった。

『太い』『幅』『大きい』『長い』など、数量・図形に関わる言葉を教師がより意識して使うことで、幼児が体験していることをより正確に捉えていくことが必要である。

第1学年・算数科

「かたちあそび」(東京書籍「あたらしいさんすう」下巻)

【教科のねらい】

- ものの形を認め、形の特徴を知ることができる。
- 具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。
- ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作をとおして、形の構成について考えたりすることができる。

【幼保小のつながり】

幼稚園や保育園では、家庭からもってきた箱や筒は、材料として種類分けしている。その際、「大きい箱」「小さい箱」「芯・筒」といった種類に幼児が分けている。また、大型積み木で遊んだ後には、四角のなかま、三角のなかま、細長い四角のなかまといった積み木の面の形毎に、後片付けをする活動もある。遊びを通して立体に触れ形や機能の特徴は感覚的にはつかんでいるが、まだ立体の機能と形・大きさ・色の特徴が混沌としている。また、「子どもの学びや育ちの調査」において、「他の意見に触れて、自分なりに振り返ったり、新しい考えを生み出したりする」の項目の数値が低かったことを踏まえ、手だてを考えた。

【育みたい幼児の姿・目指す児童の姿】 幼稚園教育要領5領域・新学習指導要領算数科解説より

幼・身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。  
 小・積み木や箱などを揃んだり並べたりする活動をとおして、ものの形を認め、形の特徴を知ろうとする。

思考力の芽生え

幼・身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。  
 小・身の回りにある積み木や箱の形の中から、色や大きさ、位置や材質などではなく、ものの形のみに着目してものを捉えようとする。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

【幼保小のつながりを意識して、学習を深めさせる手だて】

身の回りから集めた箱や缶などを用いて、タワーや動物、乗り物など作って遊ぶ活動から入るが、製作後には、「なぜこの箱を使ったのか」と問い、立体の機能面にも目を向けさせる。  
 身の回りの箱などを「仲間分け」する場面では、大きさ・色・材質等を捨象し、ものの形のみに着目して分けられるようにする。  
 話し合い活動では、お互いの考えを聞き合い、一人ひとりの児童が自分の考えがもてるように、3～4人のグループ構成にしお互いの考えを交流しながら活動できるようにする。

【単元の目標】

身の回りにある物の形についての観察や構成などの活動をとおして、立体図形についての理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする。

【単元の評価規準】 新学習指導要領

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
ものの形を認め、形の特徴を知ることができる。 具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。 前後、左右、上下など方向や位置についての言葉を用いて、ものの位置を表すことができる。	ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して、形の構成について考えたりすることができる。	身の回りにあるものの形について、観察や構成・分解したり、形の特徴や機能を捉えたりしようとしている。

【単元指導計画と評価計画】(5時間扱い)


時	指導内容
1 2	立体図形に親しみ、箱などの身の回りの具体物の概形を捉え、立体図形の特徴や機能を知る。
3 本 時	箱などの身の回りの具体物から形を抽象し、立体図形の特徴をまとめる。
4 5	立体図形を構成する一部分に平面図形があることを知る。

【本 時】

(1) 本時の目標

- ・箱などの身の回りの具体物から形を抽象し、立体図形の特徴をまとめる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	児童の反応および思考・判断
5分	1 学習のめあてを知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     にているかたちをみつけて、なかまにわけよう。                 </div>
10分	2 いろいろな箱の形に目を向けて、箱や缶を分けてみる。(グループ)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     1つ1つのはこの形をよく見て、仲間分けしましょう。                 </div> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <b>【環】</b>仲間分けの着目点を示し、児童の考えで仲間分けしやすい箱の準備をする。                 </div> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;">  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     立体の面を見て、仲間分けの種類を考えている。カ                 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     友達と話し合いながら、仲間分けをしている。ケ                 </div>



12分

3 仲間分けした立体をどんな仲間か話し合い、ネーミングをする。  
(グループ)

分けた仲間に名前を付けましょう。箱のどの部分で仲間分けしたのかをヒントにするといいですね。

【教】仲間分けの時、どこに目を向けて仲間分けをしたのか問い、ネーミングのヒントになるようにする。



形の特徴に目を向け友達と話し合いながら、自分なりの言葉でネーミングを考える。ヶ

仲間分けした箱を見て、共通点を見付け言語化しようとしている。カ



13分

4 グループ毎に同じ箱の仲間にどのような名前を付けたのか、その訳も発表し、話し合う。(全体)

仲間分けの名前と理由を発表しましょう。

【教】色々な仲間分けの仕方をそれぞれ認め、どの仲間分けがよいかという価値付けはしない。



グループ毎に考えたネーミングとそのわけを伝え合う。ヶ

友達の考えと自分の考えを比べ、形の見方の違いに気付く。ウカ



【他】グループ活動の後、全体でも話し合えるような場の設定をした。



お互いの考えを伝え合い、共通点を見出しながら箱の仲間分けを考える。ウ

5分 5 自分で箱を仲間分けし、学習したことを確かめる。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え  
自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

【評価について】

○箱の形に目を向け仲間分けし、その仲間に名前を付ける姿が見られた。形に目を向けやすい箱を準備し、仲間分けの仕方やネーミングを教師が受け入れる姿勢で授業を展開することが有効である。

【考察】

○箱を仲間分けする際、筒型とボール型を「まるの仲間」、はこ型とサイコロ型を「しかくの仲間」と大きなくりで捉える実態もあった。

○教科書の中では、仲間分けを4種類にしているが、本時では無理に仲間分けを4つに絞らず、次時以降に児童の思考の流れに沿って、仲間分けははっきりさせていく方が自然であると考えた。児童の学びを尊重し、多様な活動をとおして自ら新たな気付きを生み出す思考過程を大切にしたい。

## 第1学年・算数科

## 「かたちづくり」(東京書籍「あたらしいさんすう」下巻)

## 【教科のねらい】

身の回りにあるものの形に関心を持ち、色板や棒を並べて、いろいろなものの形を作ろうとする。色板をずらしたり裏返したりすることとおして、いろいろな形を構成・分解することを考えることができる。

色板で作った形と棒で作った形も同じ平面図形として見られることを理解する。

## 【幼保小のつながり】

子どもたちは、幼稚園や保育園の時から、絵を描くことには興味関心をもって取り組んでいる様子が見られる。その中で、いろいろなものを表現するときに、「まるい形」「さんかくの形」「しかくい形」などを組み合わせて描くことがある。自分の目で見たものを表現しようとしたときに、その形に似せようとして描こうとするからであると考えられる。「子供の育ちや学びについての調査」においても、図形に関する内容は、言葉で表すことも同じ形に仲間分けをすることもできているという結果が出ている。身近にある「さんかく」という形が組み合わさることで、より大きな三角形や四角形になるということを知り、それを自分なりの言葉で友達に説明できるようにしたい。

## 【育みたい幼児の姿・目指す児童の姿】 幼稚園教育要領5領域・新学習指導要領算数科解説より

幼・遊びや生活の中で自分の知っている形に親しむ体験をとおして、興味関心をもったり、必要感に応じて活用したりする。

小・身近な図形を組み合わせ、ほかの図形を作る活動をとおして、できた形を観察したり友達の作った形を見てどんな形ができたか伝え合ったりする。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

## 【幼保小のつながりを意識して、学習を深めさせる手だて】

身の回りにある箱の面の形を写し取って描いた絵をもとに、どんな形が見えるかを言葉で説明し、平面図形である直角二等辺三角形を敷き詰めて三角や四角を組み合わせた形を作る。

合同な図形を並べる活動をとおして、どんなものを作ろうか目的をもって並べたり、並べてみたらいろいろな形ができたりしたということを自分の言葉で表現する。

1枚1枚並べるだけでなく、できた形から平行移動や回転移動、対称移動をすることで違う形ができたことを、数学的活動をとおして見出せるようにする。また、それらの操作に対して、教師の言葉掛けで意味付けをしていく。

## 【単元の目標】

身の回りにあるものの形を観察したり構成したりするなどの活動をとおして、平面図形について理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする。

【単元の評価規準】 新学習指導要領

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
色板や棒を並べて、いろいろなものの形を作ることができる。 身の回りにあるものの形の特徴を捉えることをとおして、辺で囲んだ形も面でできた形と同じように見られることを理解する。	色板などをずらしたり回したり裏返したりすることをとおして、いろいろな形を構成・分解することを考えることができる。	身の回りにあるものの形に気付き、色板や棒を並べて、いろいろなものの形を作ろうとする。 数学的活動の楽しさに気付き、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしている。

【単元指導計画と評価計画】( 5 時間扱い 本時 1 時間目 )


時	目標・指導内容	評価規準
1 4	・身の回りにあるものの形の特徴を捉え、色板を並べていろいろな図形を作る活動を通して、図形への関心を高める。 ・数え棒を並べたり格子点を直線で結んだりして、いろいろな図形を作る活動をとおして、形を線でとらえることができる。	ア - 、 イ - ウ -
5	・決められた枚数でいろいろな形を作ることを通して、数学的活動の楽しさを感じ、学んだことを生かそうとする。	ウ -

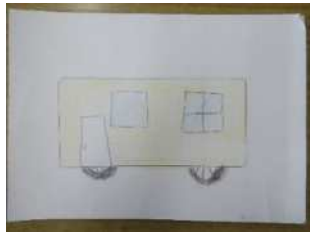
【本時】

( 1 ) 本時の目標

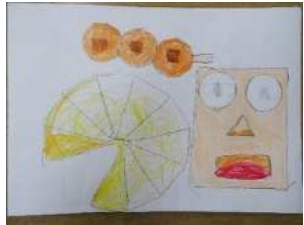
- ・身の回りにあるものの特徴を捉え、色板を並べていろいろな図形を作る。
- ・自分の作った図形を三角や四角など、知っている言葉を用いて説明する。

( 2 ) 本時の展開

時間	学習活動	児童の反応および思考・判断
5分	1 2学期に描いた絵を見て、気付いたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな四角がつながっている。</li> <li>・三角をつなげたら、違う形に見える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【経】以前に描いた絵から、本時に生かしたい考え方について取り上げる。</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>絵から見える形の名前を言っている。(ケ)</p> </div>



四角を組み合わせて、大きな四角にしている。



三角を組み合わせて、丸みたいになっている。

いろいろな形を並べている。



【環】全員で前に集まって、近くで絵を見られるような場の設定をした。



- 5分
- 2 学習のめあてを知る。
- ・本時で使う「三角」の色板を見る。
  - ・並べるときに気を付けることを知る。

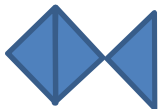
さんかくをならべて、かたちをつくろう

【教】どのように並べたらよいか困っていたら、児童の思いを聞き取り支援する。

- 10分
- 3 色板を並べて、いろいろな形を作る。
- ・色板を使って、好きな形を作る。

絵を描いたときと同じように自分の作りたいように形を作る。ク

できる形の例



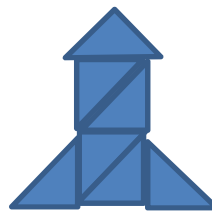
魚



家



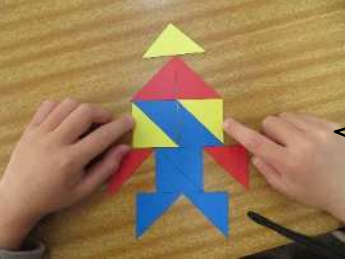
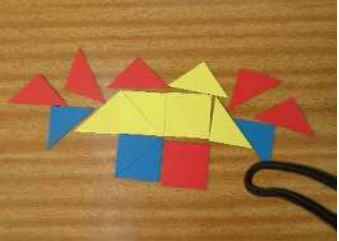
クリスマスツリー



ロケット



電車

10分	<p>4 できた形を友達に説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品について話す。</li> <li>・友達の作品を見て、感じたことを伝える。</li> </ul>	 <p>三角と四角でロボットができたよ。</p>  <p>向きを変えたり、ずらしたりして、カニになったよ。</p> <p>【他】説明する児童と見に行く児童に分かれて、自由に友達の作品を見合う。</p> <p>↓</p> <p>自分なりの表現で、できた形について話している。ヶ</p>
10分	<p>5 全体で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が選んだものについて、全体で発表する。</li> </ul>	<p>【教・他】できた作品を電子黒板に写し、工夫や作ったものを発表する。</p> <p>↓</p> <p>「サメの口やひれを工夫した」「同じ三角から、いろいろな形ができた。」カクヶ</p>
5分	<p>6 本時の振り返りをする。</p>	
<p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】  健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え  自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現</p>		

【評価について】

自分なりの表現で「さんかく」や「しかく」を生かして、いろいろな形づくりができた。ただ並べただけになっている児童にも、自分の作品のどこに三角や四角があるか気付けるような声掛けをしてけるとよい。

【考察】

- ・基本図形である直角二等辺三角形の形を意識して活用させるため、本時では「重ねる」ということはなしとした。初めに押さえたことで、自分の形づくりに生かしていた。
- ・ねらいを達成するためには、並べたときに三角や四角ができたことを意識して作っているか、偶然にできたのかを見取り、次時の活動に生かすことが必要である。